

氏 名	朴 美仙
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第558号
学位授与年月日	令和3年3月15日
審 査 委 員	主査 教授 稲垣 正俊
	副査 教授 織田 禎二
	副査 臨床教授 菅森 峰

論文審査の結果の要旨

せん妄は意識障害の一種で、過活動型、低活動型、混合型の3亜型に分類される。これまで急性非代償性心不全（acute decompensated heart failure; ADHF）にせん妄を合併することが予後に関連するとする後方視的研究は散見される。申請者は、ADHFの患者において入院中のせん妄発症率、予後（全死亡率）、せん妄発症の危険因子を前向きに調査した。単施設前向き観察研究で、ADHFで入院した成人患者132人を対象とし、入院日から14日間連続でせん妄発症の有無をDSM-5を用いて評価した。更に退院後からの90日死亡率をアウトカムとして、せん妄発症群と非発症群の予後を比較した。その結果、ADHF患者の27.3%（36人）がせん妄を発症した。せん妄発症率は、入院翌日に最も多く、入院後1週間以内の発症が大多数を占めていた。また、過活動型せん妄が86.1%と最多を占めた。2群間の90日全死亡率は、せん妄発症群が非発症群と比べ有意に高かった（発症群 vs 非発症群：21.6% vs 3.9%、 $p=0.002$ ）。せん妄のリスク因子解析では、高齢・男性・認知症・臨床フレイルスケール高値が有意な関連因子であった。本研究から、ADHF患者におけるせん妄発症群は非発症群に比べ予後不良であること、高齢・男性、認知症患者などでせん妄のリスクが高まることが示唆された。ADHF患者におけるせん妄の発症を予測し、適切な管理をすることにより予後改善につながることを期待され、学術的に価値のある研究である。